

◆ 東京都地域防災計画(震災編第4部)修正の概要

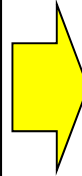
平成26年7月18日
総務局総合防災部

■ 修正の背景

◎ 「南海トラフ巨大地震等による東京の被害想定」や、南海トラフ地震対策特別措置法改正等を踏まえ、震災編を見直し

◆ 被害想定

- 南海トラフで発生しうる最大クラス（M9クラス）の地震を想定
- 島しょ部の津波高が高く、浸水域で建物・人的被害の発生を想定
 - ・ ただし、島の急峻な地形により、浸水しない地域も多い。
 - ・ ゆれや液状化による被害は小さい。



西日本を中心に甚大な被害が発生し、限られた資源で救援活動を行うことが想定されることも踏まえ、島しょ部において、特に、以下の対策を実施

- 「津波による人的被害ゼロ」を目指した迅速な避難対策
- 孤立化する可能性がある島しょ部の地域特性を踏まえた対策

■ 主な取組の概要

【ハードとソフト両面の避難対策】

- 津波避難施設等の整備
 - ・ 早期避難が困難な港に津波避難タワー等を整備（大島岡田港など9港）
 - ・ 避難経路、夜間照明等の整備（道路管理者）
- 津波ハザードマップ作成
 - ・ 津波ハザードマップ基本図を島しょ町村へ提供し、津波ハザードマップの作成を支援
- 実効性の高い津波避難計画策定
 - ・ 津波避難計画策定指針、津波避難計画モデルを提供し、実効性の高い津波避難計画（町村、地域等）の策定を支援
- 避難行動要支援者・観光客対策
 - ・ 島しょ町村が作成する避難行動要支援者名簿を活用した避難誘導體制の整備
 - ・ 住民参加による地域ごとの避難計画策定
 - ・ 宿泊施設等による避難計画策定や避難場所、避難経路等の広報
- 島しょ総合防災訓練実施
 - ・ 住民参加型の津波避難訓練を実施し、日頃の備えや支援体制を強化するとともに、避難計画等を見直し

【備蓄の拡充】

- 1週間分を目標に備蓄
 - ・ 自助・共助・公助が連携し、1週間分を目標に備蓄
 - ・ 家庭内備蓄、事業所内備蓄の呼び掛け
- 備蓄体制の強化
 - ・ 迅速に物資を提供できるよう、分散備蓄を実施
 - ・ 高台や浸水がない場所への備蓄倉庫の設置



【輸送体制の強化】

- 空路・海路の複線化
 - ・ 既存のルートに加え、臨時便の増発、船舶のチャーター等の検討
 - ・ ヘリコプター燃料確保対策の検討
- 輸送機能の確保
 - ・ 港湾、漁港、空港施設の改良
 - ・ 被災時の応急復旧
- 迅速な輸送体制の構築
 - ・ 広域輸送基地（本土）及び地域内輸送拠点（島しょ）を確保
 - ・ 調達先から島しょ部までワンストップで対応できる輸送体制の構築

◇ 修正スケジュール

防災会議幹事会、素案公表 パブリックコメント募集	5月29日
防災会議、震災編・風水害編修正	7月18日

◆ 南海トラフ地震防災対策推進計画

○ 上記の取組の他、救出・救助活動やインフラ応急復旧など総合的な対策を構築し、法に基づく南海トラフ地震防災対策推進計画として位置付け

◇ 女性・要配慮者の視点なども反映

◇ 第4部は、第6部東南海・南海地震防災対策推進計画（今回修正）と第5部東海地震事前対策（時点修正）を統合したもの

◇ 第4部とあわせて、第1部～第3部も時点修正